

資源状況に応じた種苗放流の推進

〈ニゴロブナ栽培漁業推進事業〉 事業費:37,125 千円 補助金:24,750 千円
(補助先:(公財)滋賀県水産振興協会)

～事業の背景～

琵琶湖の固有種で、ふなずしの原料であるニゴロブナの漁獲量は、平成元年ごろは 200 トン近くありましたが、一時 18 トンにまで落ち込みました。しかし、種苗放流など様々な取り組みにより徐々に増加し、平成 23 年以降には 50 トン近くまで回復してきました。

～事業の内容～

水田を活用した種苗放流（全長20mmサイズ）と、晩秋期の琵琶湖沖合への秋稚魚放流（全長120mmサイズ）の 2 種類の放流を行っています。ニゴロブナの種苗生産・放流は（公財）滋賀県水産振興協会が行っています。

～事業の実績～

令和 4 年度は、ニゴロブナ種苗の全長20mmサイズを866.1万尾、120mmサイズを101.4万尾放流しました。



水田育成種苗（全長 20 mmサイズ）の流下



秋稚魚（全長 120mm サイズ）の放流

